

(様式2) 新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		道路改築事業		路河川名等	(一)上松南木曽線				
事業毎の通番		6	市町村名	上松町、大桑村	箇所名(ふりがな)	読書ダム～戸場(よみかきだむ～どば)			
事業概要	事業目的	木曽川右岸には、古くから存在する集落が多数あるにも関わらず、南北を結ぶ道路は狭小で見通しが悪く、一部交通不能区間もあるため、国道19号が生活道路となっている。国道19号は、中京圏と松本・長野を結ぶ重要な道路であり、木曽地域の振興にも大きな役割を果たしているが、大型車の混入が多く事故等で通行止めになると、県内の経済活動や地域の生活に多大な影響を及ぼす。木曽川右岸道路の早期整備により、木曽地域の方々にとって安全で利便性の高い「生活道路」を確保するとともに、国道19号通行止めの際には、その代替路としての機能も確保するものである。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	木曽川右岸道路、木曽地域振興計画、中期総合(コメント)、総合5か年(事業着手)							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 : 2,400台/日							
	着手年度	平成27年度	事業期間	7年間		事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果	1.4		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=2,800m w=6.0(8.0)m			6,600,000	3,960,000		2,376,000	264,000
	年度事業内容(主な工種)								
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	落石危険の解消 災害に強い道路						
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○代替道路の有無：迂回道路は幅員が狭く線形がよくない ○交通結節点アクセス：JR十二兼駅への1次アクセス道路 ○観光地アクセス：観光地 妻籠宿(48万人)、木曽福島(50万人)、寝覚ノ床(18万人) ○地域の活性化：山間地域の生活支援、冬期通行不能解消						評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：総合5か年(事業着手) ○緊急輸送道路の路線指定：国道19号代替の避難路 ○地域指定：南海トラフ地震防災対策推進地域						評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C)：1.6 ○事業期間：10年 ○工法等の比較検討：今後検討 ○他事業との連携：道整備交付金(代行)川向、リニア関連						評価	B
	緊急性	○近年の交通事故件数：8件(国道19号代替道) ○渋滞及び騒音・振動の緩和：新設道路(国道19号代替道) ○歩道整備：無し ○現況の幅員、半径、勾配：現況幅員2.5～4.0m						評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者以外にも周知(木曽川右岸道路づくり合同委員会年1回開催) ○地域の取り組み：木曽川右岸道路づくり合同委員会 ○地域の合意形成：木曽川右岸道路づくり合同委員会 ○住民との協働：木曽川右岸道路づくり合同委員会						評価	B
	部意見	事業の必要性、重要性が高いが、地域の合意形成など計画熟度がやや低いため、事業化を見送りたい。	行政改革課意見	必要性、重要性が認められる。		評価結果	総合評価		
						B			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



平面図



位置図

【整備の必要性がわかる状況写真等】



①



②

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	国道19号に対し木曽川の対岸を通る路線であり、木曽川右岸道路の計画区間として位置付けられている。当箇所は上松町登玉地区と大桑村上村地区の間に位置するが、現在、未舗装の林道で結ばれており狭く見通しも悪いため交互通行が困難なため、19号の代替機能を持たせるためにも改良を早期に完成させ、地域住民の民生安定が望まれている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H14に木曽川右岸道路づくり合同委員会及び南部部会が立ち上がり、当箇所を含めた木曽川右岸道路南部検討区間22kmについて、計画策定段階から住民が参加する(PI)形で計画を進めてきた。南部部会は各町村委員会からなり、その委員は地区選出者や各組織代表者などから構成されており、部会では地元からの要望が直接的に出されている。
③事業説明等の経緯	H14に合同委員会が2回、南部部会が4回、H15に南部部会が3回、H16以降、年1～2回のペースで開催され、木曽川右岸道路のコンセプトやルートの検討を行ってきており、当箇所の早期着工を毎回強く求められている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	木曽川右岸道路南部計画区間の22kmの一部である。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	木曽川右岸道路(南部ルート)建設事業環境影響評価書に従う。
⑥地域活性化への影響と配慮	これまで概略ルート等についてPIIにより住民の意見を集約しながら検討してきたが、今後も詳細なルートの決定や道路の設計についても住民参加型の事業の促進に努めてまいります。
⑦その他	コストの縮減が期待できる案を採用している。

事業周辺環境

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 38' 24" 東経:E 137° 36' 34"
-------------	---------------------------------------